



放課後子ども総合プラン事業の実施状況等について

ながの子育て
応援キャラクター

サイマル



こども未来部こども政策課

実施施設数・登録児童数の状況



(1) 実施施設数の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
児童館・センター数	42	42	42	42	42	39	39	39	37	35	34	33	32
子どもプラザ数(学校内)	46	48	48	49	49	49	49	49	50	50	50	49	48
児童クラブ数(民施設)	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

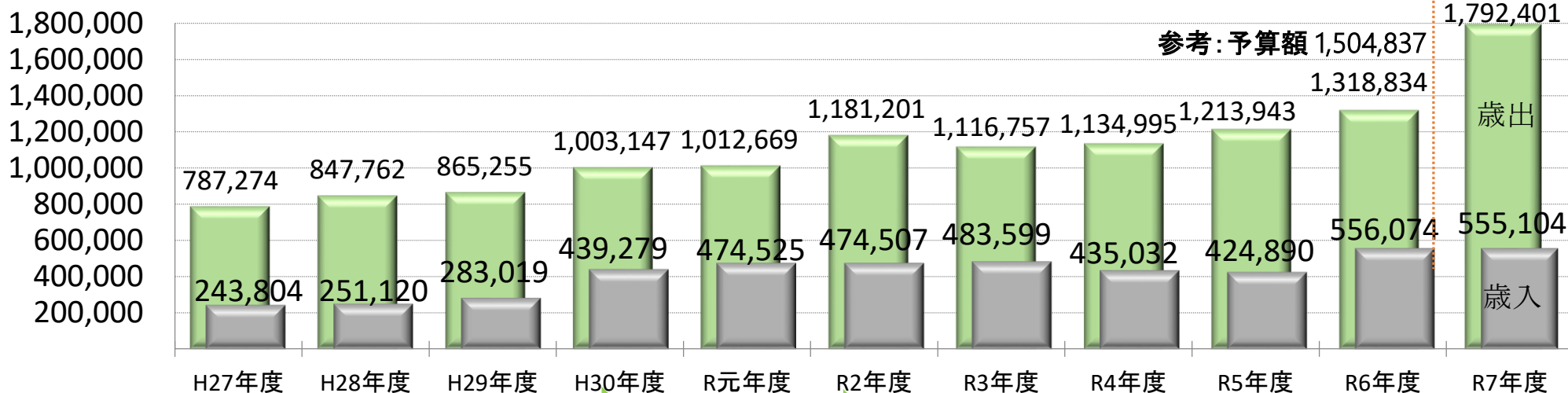
(2) 学年別登録児童数の推移

(各年5月1日現在)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6 [㉠]	R7 [㉡]	㉢-㉠	登録率
1年生	1,982	1,934	2,063	2,044	2,127	2,047	2,038	1,910	2,032	1,930	1,908	1,938	1,977	39	76.1%
2年生	1,756	1,943	1,897	2,027	2,031	2,051	2,041	2,011	1,872	2,029	1,948	2,011	2,006	△5	73.9%
3年生	1,529	1,495	1,692	1,775	1,833	1,676	1,844	1,821	1,718	1,636	1,801	1,779	1,888	109	67.9%
4年生	686	729	1,035	1,303	1,437	1,255	1,312	1,476	1,327	1,336	1,235	1,497	1,510	13	52.5%
5年生	314	476	620	844	951	864	883	953	898	942	858	952	1,144	192	38.1%
6年生	194	207	374	462	607	461	577	547	488	562	547	567	665	98	22.6%
合計	6,461	6,784	7,681	8,455	8,986	8,354	8,695	8,718	8,335	8,435	8,297	8,744	9,190	446	54.4%

事業費・登録児童数の推移

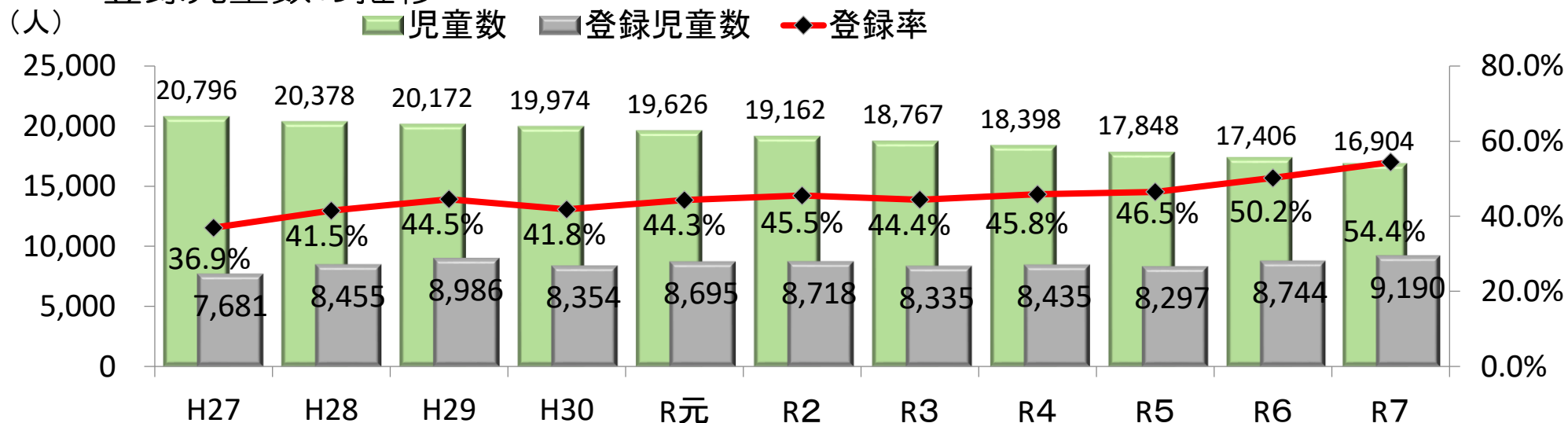
(千円) 事業費の推移



子ども・子育て支援新制度

利用料導入

登録児童数の推移





減免の適用状況

(各年5月1日現在)

減免項目		減免理由	減免割合	月額利用料 (円)	該当児童数		
					R6年度①	R7年度②	②－①
減 免 な し			－	2,000	6,301人	6,668人	367人
減 免 適 用	経済的事情	生活保護受給世帯	10/10	0	14人	13人	△1人
		市町村民税非課税世帯	1/2	1,000	82人	56人	△26人
		児童扶養手当受給世帯	1/2	1,000	268人	280人	12人
		就学援助認定世帯	1/2	1,000	215人	194人	△21人
		経済的事情 小計			579人	543人	△36人
	地域性	遠距離通学児童等	2/5	1,200	86人	96人	10人
	多子利用	多子2人目	1/2	1,000	1,455人	1,503人	48人
		多子3人目以降	10/10	0	114人	183人	69人
		多子利用 小計			1,569人	1,686人	117人
	その他	減免項目の組合せ ^(※)			209人	197人	△12人
減免適用 合計					2,443人	2,522人	79人
合 計					8,744人	9,190人	446人

(※)「減免項目の組合せ」は、「経済的事情」、「地域性」、「多子利用」の2以上に該当する場合をいい、その場合の利用料は、当該児童が該当するそれぞれの項目に定める割合を乗じて計算する。
例) 就学援助の認定を受けている世帯に属する児童2人がプランを利用する場合
1人目の児童 月額1,000円 (2,000円×1/2(就学援助認定世帯))
2人目の児童 月額 500円 (2,000円×1/2(就学援助認定世帯)×1/2(多子2人目))



プラン事業充実の取り組み①

施設環境の整備

■冷房設備の設置・更新・移設

令和6年度事業実績

- ・児童館・児童センターへの整備 更新:2施設

令和7年度事業予定(※こども政策課予算分のみ)

- ・児童館・児童センターへの整備 新設:15施設(遊戯室へのエアコン設置)
更新:2施設

■ICT化

令和4年度事業実績

- ・令和5年1月からコドモン(入退館管理システム)の本格運用開始

令和5年度事業実績

- ・口座振替WEB申込サービスの検討及び予算化

令和6年度事業実績

- ・口座振替WEB申込サービスの導入

令和7年度事業予定

- ・収納管理システム更新(DX対応)の検討

(申込書の電子化・口座振替WEB申込データの取込み 他)



プラン事業充実の取り組み②

職員研修の充実

令和6年度研修実績

- ・管理職研修会 館長研修「総合プランの理解と運営・サービス等」
- ・救急救命法研修会 「心臓マッサージおよびAED使用」について 講師：日本赤十字社
- ・プラン研修会(1) 遊びを通じた施設での子どもたちの関係づくり 講師：松本大 岸田講師
- ・プラン研修会(2) 子ども理解「愛着の問題 その理解と対応」 講師：信州大 下山准教授
- ・プラン研修会(3) 「専門職としての支援員」を目指して 講師：町田市 小野支援員
- ・職場内研修 「子ども理解と支援の充実」に向けて、配信資料を基に職場内研修
- ・避難訓練 防災・安全意識向上のため、「避難訓練」を職場内研修として実施

令和7年度研修予定

- ・管理職等研修会 館長・主任支援員研修「総合プランの理解と運営・サービス等」
- ・救急救命法研修会 「心臓マッサージおよびAED使用」等 各施設でのビデオ視聴研修
- ・プラン研修会(1) 遊びを通じた施設での子どもたちの関係づくり 講師：長野大 中山教授
- ・プラン研修会(2) 子ども理解「愛着の問題 その理解と対応」 講師：信州大 下山准教授
- ・プラン研修会(3) 「専門職としての支援員」を目指して 講師：町田市 小野支援員
- ・職場内研修 「子ども理解と支援の充実」に向けて、配信資料を基に職場内研修
- ・避難訓練 防災・安全意識向上のため、「避難訓練」を職場内研修として実施



アドバイザーの活動状況①

アドバイザーとは

放課後子ども総合プランの実施場所において、放課後などの児童の遊び・学習・体験活動を支援していただく登録制のボランティアです（活動費の支給あり）。

登録方法

市が開催するアドバイザー登録説明会に参加の上、アドバイザー登録カードを提出します。

※令和7年度の登録説明会（年3回開催）の日程は以下のとおりです。下記以外でも登録希望者には説明会を実施しています。（要相談）

※学生に向けては各大学ごとに日程を調整して、実施します。

期日	研修	研修時間	研修会場
①4月24日（木）	アドバイザー説明会（1）	10:00～11:00	ふれあい福祉センター
②9月26日（金）	アドバイザー説明会（2）	10:00～11:00	篠ノ井交流センター
③1月20日（火）	アドバイザー説明会（3）	14:00～15:00	ふれあい福祉センター

登録状況

令和7年6月1日現在

区分		登録人数	団体数
一般	個人	202人	—
	団体	561人	70団体
学生	個人	107人	—
	団体	86人	9団体
合計		956人	79団体



アドバイザーの活動状況②

登録者数の推移

(人)

	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
一般	847	833	841	956	931	841	766	732	763
学生	244	253	332	271	202	169	238	222	193
合計	1,091	1,086	1,173	1,227	1,133	1,010	1,004	954	956

令和6年度の活動状況

(延べ数)

登録区分	活動人数	活動団体数	実施回数	参加児童数
個人	2,801人	—	2,801回	56,514人
団体	2,519人	963団体	963回	31,455人
合計	5,320人	963団体	3,764回	87,969人



希望児童の受入校区拡大

放課後子ども総合プランでは、全小學校区における希望児童（理由にかかわらず事業の利用を希望する児童）の受け入れを目指しています。

本年度当初の受入状況

希望児童の受入校区 【49校区】

城山、鍋屋田、加茂、山王、芹田、緑ヶ丘、三輪、吉田、裾花、城東、南部、
大豆島、朝陽、柳原、長沼、古里、若槻、浅川、芋井、安茂里、松ヶ丘、通明、
篠ノ井東、篠ノ井西、共和、信里、塩崎、松代、西条、豊栄、東条、寺尾、綿内、
川田、保科、川中島、下氷鉋、三本柳、真島、七二会、豊野西、豊野東、戸隠、
鬼無里、大岡、信州新町、中条

（一部の施設で受入）

昭和、青木島

※赤字の校区は令和7年度から新たに受入

希望児童の受入校区拡大

留守家庭児童のみ受入校区 【3校区】

古牧、湯谷、徳間

長野市公共施設マネジメント指針に基づき、以下に該当する児童館・児童センターは、小学校の余裕教室等を利用した「子どもプラザ」への移行・統合や、小学校施設、他の公共施設との複合化について、地域や運営委員会、学校、施設等と相談しながら進めていきます。

- ・ 小学校内に、余裕教室や、長寿命化改修に併せて居室を確保できる場合
- ・ 小学校に隣接または近接していない（小学校からの移動時の交通安全や犯罪に巻き込まれる危険の防止）
- ・ 施設が破損、または施設の老朽化や損傷が著しく、施設の改修に多額の費用が必要（大規模改修や大規模修繕）
- ・ 施設定員に対し利用者数が大幅に超過（施設基準に不適合、密集の発生）

児童館・児童センターの子どもプラザへの移行状況

令和4年度	柳町児童センター	⇒ 城東子どもプラザに統合（老朽化・近接していない）
	豊野東部児童館	⇒ 豊野東子どもプラザに統合（老朽化）
	古里児童センター	⇒ 3年生を古里子どもプラザへ移行（利用者超過）
	柳原児童センター	⇒ 2年生の一部を柳原子どもプラザへ移行（利用者増加）
	篠ノ井中央児童センター	⇒ 2年生の一部を通明子どもプラザへ移行（利用者超過）
令和5年度	浅川児童センター	⇒ 浅川子どもプラザに統合（老朽化・近接していない）
	松代東条児童センター	⇒ 3年生を東条子どもプラザへ移行（利用者増加）
令和6年度	箱清水児童センター	⇒ 城山子どもプラザに統合（老朽化・近接していない）
令和7年度	三輪児童センター	⇒ 三輪子どもプラザに統合（長寿命化改修に併せて居室確保できたもの）

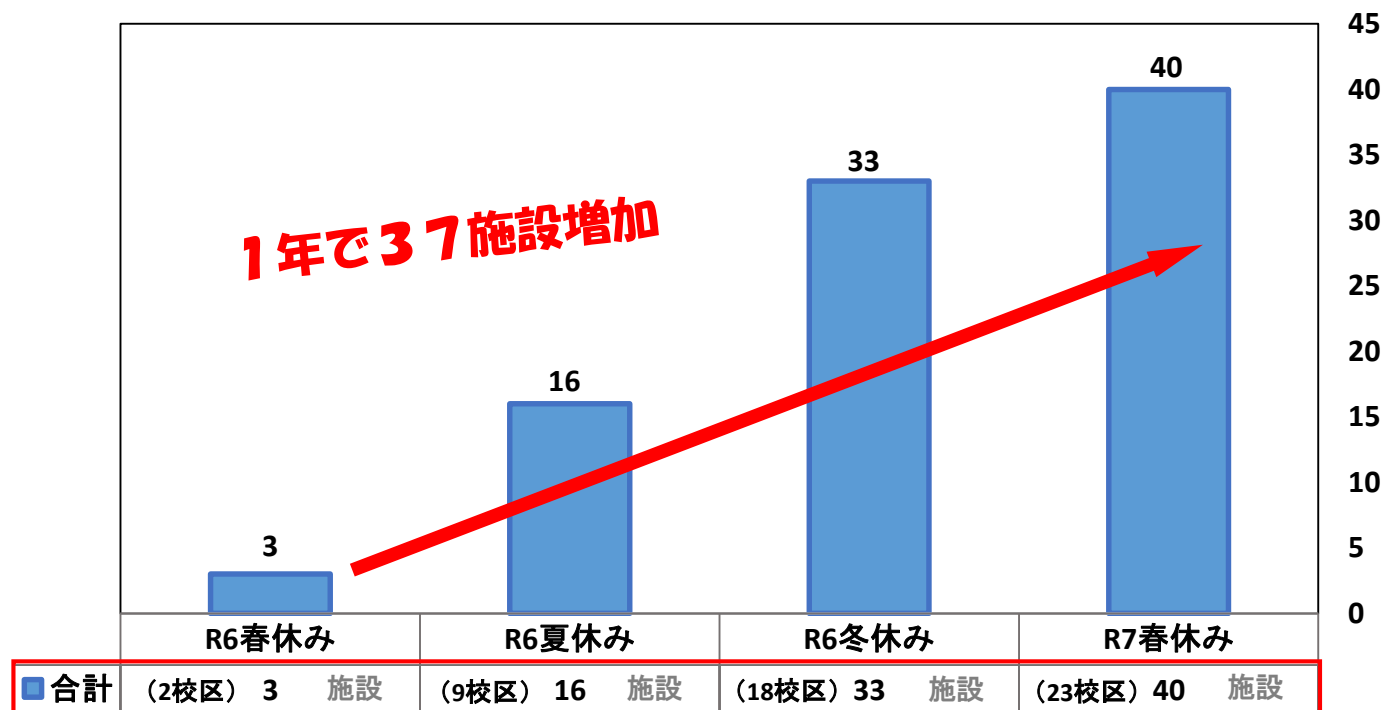
①これまでの経過

- 【R5.6.28 こども家庭庁事務連絡】長期休業中の昼食提供に関して地域の実情に応じた対応を。
- 施設職員の負担を最小限で昼食提供ができるか令和6年の春休みに2校区3施設で試験的に実施。
- 長期休業終了後に利用者アンケートを実施し、結果は弁当事業者と共有しながらブラッシュアップしている。
- 直近の**令和7年3月の春休み**には**23校区40施設**で実施した。

②施設数の推移

施設数拡大への取組み

1. 事業者の配送ルート等から対象施設を選定
1. 施設に協力を要請
2. 配送できない地域は、新たな事業者にも協力を要請



長期休業中の昼食提供について②

12

③利用者数と注文数

施設数の増加と併せて昼食提供事業の定着化で徐々に注文数を延ばしている。

R6 春休み		校区数	施設数	登録者数	注文総数	備 考	R6 冬休み		校区数	施設数	登録者数	注文総数	備 考
	合計	2	3	300	51	4.5個/日		合計	18	33	4119	769	153個/日
R6 夏休み		校区数	施設数	登録者数	注文総数	備 考	R7 春休み		校区数	施設数	登録者数	注文総数	備 考
	合計	9	16	1944	1509	85個/日		合計	23	40	5093	1679	181個/日

④メニューと価格

※令和7年3月(春休み)時点

事業者名	注文方法	注文〆切	支払方法	メニュー	主な取組み
ち志ま (21施設)	保護者 ↓ 注文専用サイト	注文は前日 15:00 キャンセルは当日8:30	口座引落	3種類 (300円～500円)	・価格据置で子ども向けメニューを増やす
カラフル キッチン (5施設)		注文は前日 キャンセルは当日8:30	口座引落 請求書払い	10種類 (400円～1000円)	・学童専用のお弁当(400円)を導入
オレンヂ (7施設)	保護者 ↓ LINEで注文	注文は前日 キャンセルは当日8:30	オンライン決済 請求書払い	3種類 (400円～450円)	・カレーやハンバーガーなど多彩なメニュー で毎日注文しても飽きない工夫



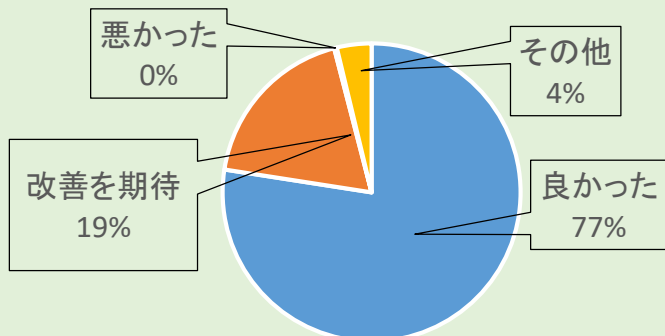
長期休業中の昼食提供について③

13

⑤アンケート結果

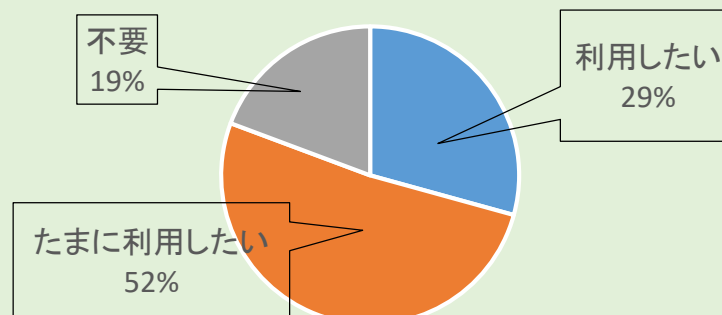
- 配達弁当の利用者からはおおむね好評を得ているが、注文方法やメニュー等で改善を期待する声がある。
- 今後の利用について8割以上の人利用を考えている。

配達弁当を利用しての感想



令和7年3月の配達弁当利用者のうち346人が回答

今後の利用について



令和7年3月の施設利用者のうち2,766人が回答

⑥利用者の声

好意的意見

- ・本当に助かった
- ・他県の人に話したら先進的と羨ましがられた
- ・子どもがお弁当を楽しみにしていた
- ・衛生面で安心できる
- ・配達弁当が注文できる選択肢があるという安心感がある
- ・子どもが許せばもっと注文していきたい

改善要望

- ・値段やメニューの幅を増やしてほしい
- ・野菜を増やしてほしい
- ・注文方法が複雑と感じた
- ・注文時に写真があるといい
- ・支払いがわかりずらかった(オンライン決済)
- ・おかずのみがあればご飯の量は家庭で調整できる

⑦今後の展開

- ・引き続き弁当事業者との連携や、新規事業者の開拓を進める。
- ・利用者や施設職員の声を聴き、より良いサービスを目指す。
- ・国や県の補助金を活用するなど、中山間地域を含めて弁当事業者が参入しやすい事業を研究する。

